

寺口真一県知P連会長さんからのメッセージ(大役ご苦労様でした!)

＜県知P連会長：寺口真一＞

■南魚総合支援の伝統として継続してほしいこと…

今年度の活動全般を振り返ってみて、多くの校外学習、地域の方々や各学校との交流、新聞等のメディアへの対応等を積極的に行っていることを、特に評価したいと思います。今年度、県知P会長として、県内のみならず、全国の色々な学校の方と話をすることが多くありましたが、この学校ほど地域と一体になっている学校は、私が知る限り他にはありません。依然として内向きな学校も多い中で、「これからの特別支援学校はこうあるべきだ」というひとつの手本になる学校だと、私は思っています。是非、今の教育活動を、この学校の伝統として継続していただきたいと思います。



■不安に思うこと・注意していただきたいこと…

校外学習を積極的に行うのは大変よいのですが、子どもたちが校外に出るということとは、それだけ危険も伴います。ただでさえ不足している職員の数で、あれだけの子どもすべてに目を配るのは相当大変なことだろうと思います。場所的に交通量も多いですし、川や山には危険が沢山あります。一度、事故が起きてからでは遅いのです。第一に、子供たちの安全を。それが担保できて初めて校外に出る。この順番は絶対に変えないようにしていただきたいと思います。職員が不足している場合は、我々保護者からボランティアでの手伝いをもっと積極的に募集するのもいいと思います。我々保護者は積極的に協力しますから。

それともう一点。この学校の魅力が増すことは大変良いことですが、そのために、本来必要でない子どもたちまで、この学校に引き付けてしまうことになってしまっは、やはりいけないと私は考えています。小・中学校で学べる子は、各学校の特別支援学級で支援を受けながら学ぶべきだと思います。しかしながら、いまの現状も理解できます。ですので、今年度立ち上げた特別支援教育推進室は是非継続していただき、市内全体の特別支援への理解やスキルアップを図っていただきたいと思います。

■何でも言い合える関係・信頼関係を大切に…

今のこの学校の活動は、我々保護者と職員の方々の信頼関係がないと成立しないと、私は思っています。お互いがお互いの顔色をうかがって話をするようでは信頼関係は生まれません。少なくとも私はそう思って、PTAの先頭に立って引っ張ってきたつもりです。是非、これからも、お互い思っていることが言い合える関係であってほしいと思います。





世界のエリートって、どんな仕事ぶり・生活ぶりなのか？

□「世界のエリートはなぜ、この基本を大切にするのか？」（戸塚隆将著、朝日新聞出版、2013）…書名にひかれて早速読んでみた。

一介の凡夫が、いまさらエリートを目指そうと考えたわけではない。

ただ、一国だけでなく、世界を股にかけて活躍する一流の職業人（エリートと呼ばれる人々）は、どんな生活信条や生活習慣を持っているのか知りたかった。きっと自分とは大きくかけ離れた生き方をしていると思ったからだ。著者の戸塚さんはこの本の中で、自分が勤務していた、ゴールドマン・サックス（世界最強の投資銀行）、マッキンゼー・&・カンパニー（世界最高のコンサルティング・ファーム）と、学んでいたハーバード・ビジネス・スクール（世界最上級のビジネス・スクール）で、接した世界中から集まっていたビジネスエリートの、その共通するメンタリティーや生活習慣をまとめたものだ。私の心に残った事柄を要約すると、以下のようになるうか。

＜1＞人との『つながり』を大切にする…利害関係を越えた何かのつながりを信じることで、結果として人間関係は発展する。

- 貴重な時間とお金を人とのつながりに投資する。
- 先輩・上司との飲み会を避けない。
- どんなに多忙でも、週1回は仕事と関係ない人に会う。



＜2＞『自分磨き』を一生続ける…余裕のある心を維持するために、日頃から「アフターユー（お先にどうぞ）」を大事にする。相手に譲る気持ちは相手に必ず通じる。

- エレベーターで他人を先に降ろす余裕をもつ。
- 「すみません」より「ありがとう（積極的な感謝の意）」を伝える。
- 正解のない問題を考えるクセをつける。
- 無遅刻・無欠勤を続けられる健康管理をする。
- 服装は個性よりも清潔感を大事にする。まず足下の靴を磨くことから…。



＜3＞『日々の成果出し』に強くこだわる。

- どんな理由があろうと10分前には現地（会議）に到着する。
- 3秒で開ける場所に常にノートを置いておく。常にメモリ、アイデアを書く。
- 仕事を頼まれたら、その場で完成イメージを上司や同僚と共有する。
- 見通しをもつため、引き受けた仕事はその場で5分間だけすぐやる。
- 与えられた仕事は聞かれる前にすぐ経過報告をする（メールの返信スピードがあなたの評価だ）。
- 資料は「紙芝居（全体構成/見やすさ）」と「3W（誰に・何を・何の目的で）」を意識して作る。
- 作った資料は「自分の商品・作品」だと心得る。
- 会議で発言しないのは欠席と同じである。



＜4＞『世界的な視野』を常に意識する。

- 今より一つ上のポジションを絶えず意識して仕事する。
- 転職はリセットではない。会社は「退学」せずに「卒業」する。
- 中・長期の目標管理には「自分ノート」を作って、愚直に書き込む。

□世界のエリートというから、凡人の真似できない、超人的ことを実践しているのかと思えば、何だ、大したことないなあ〜と、落胆された方も多いことと思う。これぐらいなら、私にもやれそう。私たちも世界のエリートを目指し、頑張りましょうよ！